

区長会研修会で 町政功労者を表彰

4月19日(土)、揖斐川町中央公民館で、区長会研修会が開催されました。

研修会では、町政功労者として6名が表彰されたほか、揖斐警察署長から防犯についての講話があり、宗宮町長からは平成26年度の町の施政方針の説明がありました。

また、前美濃市市長の石川道政氏を講師として招き「自ら創造するまちづくり」をテーマとした講演が行われました。

功労者表彰を受けられた方々は次のとおりです。

表彰受賞者

(敬称略)

表彰区分	地域	氏 名	功 績 内 容
地方自治功労	揖斐	ね 根尾 きだよし 定雄	旧徳山村村長及び助役として、村の自治と発展のために尽くされました。
社会福祉功労	揖斐	やました のりよし 山下 紀美	永年にわたり、青少年育成推進員及び清水小学校安全サポーターとして、青少年の健全育成に尽くされました。
学芸功労	揖斐	くわばら たかかず 桑原 隆一	永年にわたり、揖斐川町文化協会会長及び揖斐川町社会教育委員として、学芸・教育の振興に尽くされました。
学芸功労	春日	こでら としみつ 小寺 敏光	永年にわたり、「川合太鼓踊り」の保存、伝承に努められ、地域文化の振興に尽くされました。
学芸功労	春日	こまつ さくひろ 駒月 作弘	永年にわたり、「種本中瀬太鼓踊り」の保存、伝承に努められ、地域文化の振興に尽くされました。
土地改良功労	揖斐	くぼた よしゆき 窪田 義幸	永年にわたり、土地改良区役員として、土地改良区事業の推進に尽くされました。



▲功労者表彰が贈られました

第18回全国高校女子ソフトボール 選抜いび川大会開催

4月4日(金)～6日(日)、第18回全国高校女子ソフトボール選抜いび川大会が開催されました。揖斐川健康広場を中心に開かれたこの大会は、高校総体の予選に向けた、強化や技術力の向上を目的としており、県内8チームを含む32チームが全国から集結し、力強い熱戦を繰り広げました。

大会1日目の試合は天候不順により中止になり、2日目の予選48試合で最終日の決勝トーナメント出場チームが決まりました。県勢で唯一決勝トーナメントに出場した岐阜女子高校は、決勝で東海学園高校に1-1で引き分けましたが、抽選で敗れ準優勝となりました。



▲白熱のプレーでスタンドを沸かせました

叙位(正六位)受章

平成26年2月6日(木)に亡くなられた竹中正直さん(西津汲)が、正六位を受章され、宗宮町長よりご家族へ伝達が行われました。

竹中さんは、昭和26年から旧久瀬村の議会議員として44年間の長きに渡り在職され、産業、教育、文化、福祉の向上に尽力され大きな功績を残されました。



叙位(正六位)受章

平成26年2月13日(木)に亡くなられた岩井良三さん(黒田)が、正六位を受章され、宗宮町長よりご家族へ伝達が行われました。

岩井さんは、

昭和18年から教員として勤められ、学校教育に大きな功績を残されました。





▲さざれ石を眺める生徒と保護者ら

4月7日(月)、春日中学校のさざれ石が統合先の揖斐川中学校に移設され、除幕式が行われました。移設されたさざれ石は、50年前に春日中学校に設置され、それ以来、生徒を見守ってきた大切な石で、PTAや卒業生有志が募金を集め揖斐川中学校の玄関脇に移されました。春日中学校から移った所甫毅さん(二年生)は「毎日見てきたものがあるから春日中にいるような気がする。春日中で学んだことを発揮したい」、生徒会長の高橋明花里さん(三年生)は「春日中の伝統を引き継いでより良い学校にしたい」と話しました。

また、その他にも旧両校区の絆の証として統合記念プレート^①の設置とさざれ桜の植樹が行われました。

春日中のさざれ石が揖斐川中へ

～春日中の伝統 揖斐川中でも～



▲看板を掲げる宗宮町長(左)と塚本院長(右)

4月8日(火)、町の病児・病後児保育室「いびっこ」の開所式が揖斐厚生病院(三輪)で行われました。

「いびっこ」は、病氣中または病氣回復期に集団生活が困難な子どもを保護者や保育所に代わって保育する町の新たな子育て支援策で、運営は揖斐厚生病院が行います。同病院の5階に開設された「いびっこ」には、おもちゃや絵本などがあり、保育士と看護士が常駐します。

開所式で宗宮町長は「仕事を持つ、保護者の負担を軽減して、安心して働けるシステムにしていきたい」とあいさつしました。

当施設の利用には、事前登録が必要です。詳しくは、今月の広報P12をご覧ください。

病児・病後児保育室「いびっこ」開設



▲交通安全を呼び掛ける参加者

4月9日(水)、春の全国交通安全運動(4月6日～15日)にちなみ、揖斐警察署前の国道303号で交通安全の街頭指導を行いました。

街頭指導には、交通安全協会、揖斐建設業協会、警察官など50人が参加しました。

開始式で、揖斐警察署の伊藤善弘署長は「管内の交通事故死亡者数は昨年より1人増加した。町民の皆さんに交通安全を呼び掛けてほしい」とあいさつしました。

参加者は、ドライバーにチラシや居眠り防止のガム、小物入れなどの啓発グッズを手渡し、交通安全を呼びかけました。

春の全国交通安全運動

～交通安全を呼び掛け～



▲太鼓を打ち鳴らす踊り手

4月13日(日)、大和神社で春の例大祭があり、桂古代踊が奉納されました。

町の重要無形民俗文化財に指定されている桂古代踊は、今から650年前に土岐氏の侍が士気を高めるために踊ったのが起源とされ、その後雨乞いや豊年祈願の踊りとして形を変えながら継承されてきました。

明治から昭和にかけては、何度か途絶えましたが、保存会の結成により復活し、今では、地域の人に親しまれる踊りとして根付いています。

この日も、多くの人が見守る中、12人の踊り手が、太鼓と竹で作られた高さ3メートルほどのシナイを担いで力強い踊りを披露しました。

桂古代踊

～大和神社で力強い踊を披露～

谷汲さくらまつり

～勇壮な谷汲踊を披露～

4月5日(土)～13日(日)の期間で谷汲さくらまつりが開催されました。桜の名所として名高い谷汲山華厳寺や参道には、今年も多くの人々が訪れ爛漫と咲く桜を楽しみました。

13日(日)にはさくらまつりのメインイベントが谷汲山門前の町営駐車場で開催され、岐阜県重要無形民俗文化財の谷汲踊やキッズビクス、おば太鼓などが披露され来場者の注目を集めていました。

今年の桜は昨年より1週間ほど早かったためピークは過ぎていましたが、それでもバザーや友好提携を結ぶ和歌山県那智勝浦町と愛知県日間賀島の観光協会の物産販売などもあり会場は賑わっていました。



▲来場者を魅了した谷汲踊

J A いび川と郡内3町が災害時協力協定を締結

4月15日(火)、J A いび川と揖斐川町、大野町、池田町の郡内3町が災害時協力協定を結びました。

この日、結ばれた協定は、災害時の職員派遣などの相互応援、燃料調達、要支援者への避難施設の提供の3つで、いずれも町からの要請に対して支援が受けられるものです。

調印式で、揖斐郡町村会長の宇佐美町長(大野町)は「南海トラフ地震など大地震がいつ起こるか分からない。いかに町民の安心安全を守るかが大切。この協定は心強い」、J A いび川の堀尾茂之組合長は「郡内に1つのJ A、行政と一体となって地域に根差した運営を進めたい」とあいさつしました。



▲揖斐総合庁舎で行われた調印式

権現山が山開き

～シーズン中の安全を祈願～

4月16日(水)、久瀬地域(小津)の権現山登山口で登山者の安全を祈願する山開きの式典が行われました。

権現山は標高1157メートルで山頂からは、北アルプスや濃尾平野などを眺望することができます。

登山口からは、2時間半ほどで山頂まで登ることができるためツアー客なども訪れる人気のコースとなっています。これからのシーズンは、新緑や山野草が楽しめるのも魅力の一つです。

この日は、登山道の草刈りなどを行っている小津権現山を守る会のメンバーや地元住民、行政関係者など約50人が式典に参列し、シーズン中の安全を祈願しました。権現山の登山は11月中旬まで楽しめるようです。



▲権現山登山口の様子

北方まつり

～ねそねそ祭りを奉納～

4月20日(日)、北方神社で春季例大祭の北方まつりが行われました。北方まつりでは、神輿や三年前に復活した豊作祈願の芸能「ねそねそ祭り・田遊び」が奉納されました。

「ねそねそ祭り」は、農家の年中行事を舞台で表現する伝統芸能で、地域の女子児童を含む30人が苗打ちから田打ちまでを演じました。農家の営みを熱演する児童の愛らしい演技が訪れた人の注目を集めていました。

他にも巫女舞や、2月までの1年間に誕生した子どもたちの新氏子初宮詣式、町重要無形民俗文化財の北方踊りなども行われました。



▲「ねそねそ祭り・田遊び」奉納の様子



▲鎌入れの様子

4月23日(水)、地域交流センター(仮称)建設工事の安全祈願祭が中央公民館西側の建設地で行われました。建設が始まる地域交流センター(仮称)は、中央公民館に代わる町の文化振興やにぎわい創出に向けた新たな拠点施設として整備され、施設内には、830人を収容するホールや会議室、多目的室などを備えます。総事業費は、約29億円で、来年9月の完成を目指しています。

安全祈願祭には、宗宮町長ら関係者約70人が出席し、鎌入れなどで工事の安全を祈りました。

宗宮町長は「合併10周年の節目を迎え、地域づくりの拠点施設として進めていきたい」とあいさつしました。

地域交流センター(仮称)着工

「工事の安全を祈願」



▲観光放流を見物する観光客

総貯水容量日本一の徳山ダムで、5月1日(木)～5月5日(月・祝)にかけて観光放流が行われました。

観光放流は、10時～15時まで1時間おきにそれぞれ10分間、洪水時用のゲートを開いて、毎秒約3トンの水を放流。流れ出した水は、全長約270メートルのダム堤体斜面にウロコ模様を描きながら流れ落ちました。

来場者は、水が描く模様に感嘆の声を上げていました。

期間中は、約2500人の観光客が訪れ、2日から5日には山菜や季節の野菜などが販売され来場者の人気を集めていました。

徳山ダム観光放流

「ウロコ模様に驚き」



▲子ども歌舞伎の奉納(三輪神社)

300余年の歴史をもつ伝統文化行事の揖斐まつりが、4日(日・祝)～5日(月・祝)に三輪神社で開催されました。

岐阜県重要有形民俗文化財に指定されている豪華絢爛な5輦の軸と、その舞台で繰り広げられる華やかな子ども歌舞伎、そして勇壮な神輿の渡御が魅力の揖斐まつり。今年の子ども歌舞伎は、上新町区による『恋女房染分手綱 重の井子別れの場』が上演されました。三輪神社へと続く本町通りには、多くの屋台が軒を連ね、2日間で約3万8千人の観光客が訪れました。

300余年の歴史絵巻

豪華絢爛「揖斐まつり」

「古より伝承される技と心」



▲稚児役者の練り込み



▲神輿発御(三輪神社)